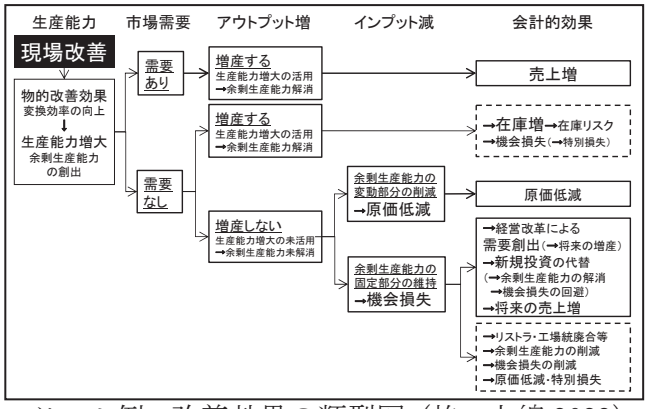
H06　現場改善会計（GKC：Gemba Kaizen Costing）

経営学部・経営学科・教授・柊　紫乃
s_hiiragi@aitech.ac.jp

キーワード　現場改善、改善効果の見える化、生産能力、機会損失、管理会計

概要

現場改善は、日本の製造業の強みである。ところが、日々改善が進む企業の方々から「改善してもなぜ業績が良くならない？」「改善活動への評価はどうすればいい？」との疑問が寄せられています。本研究室は、「現場改善会計」に基づき、企業実務にそくした改善効果の見える化を支援します。



ツール例：改善効果の類型図（柊・上總 2022）

セールスポイント

1．現場改善活動の効果や生産能力の詳細を、金額換算して測定・活用できます。
2．固定費問題等と関わって「すぐに原価低減額として現れない」改善効果についても、機会損失概念の適用により金額測定できます。

企業等での活用例、今後の展望等

1．現場の生産能力を金額測定することで、改善の重点ポイントを判別（A社例）。
2．見えない効果も把握できることで、部門共通の数値指標を策定（B社例）。
3．コロナ禍の下での減産局面においても、余剰生産能力測定により、適正人員配置の実現や、新規投資に代替可能な組織の再編成等を追究。

SDGs、ゼロカーボンへの寄与

SDGs 目標8：働きがいも経済成長も
現場の頑張りで生み出された余力が新たな経営革新を可能にします。そのためには、経営数値が現場と経営の共通用語になることが必要であり、それらを支援します。

参考資料

・柊紫乃・上總康行 2022「現場改善効果の類型化：会計的視点からの考察」管理会計学30(1)：123-140
・柊紫乃 2023「現場改善会計論の提唱：原価管理から余剰生産能力管理へ」管理会計学31(2)：47-67